

## 「子どもを虐待から守る条例」を制定

### ～議員提案条例として賛成多数で可決

(事務局)

市議会の9月定例会で「川崎市子どもを虐待から守る条例」が制定されましたね。

(堀添)

川崎市内でも児童虐待に関する相談・通告件数が急増しており、2011年度には前年度比26%増の1320件に上りました。相談や通告の件数が増えたことが、直接的に児童虐待件数も増えていることを意味するわけではありませんが、行政として対策を強化していくことは急務と言えます。

そうした中、自民党、民主党、公明党、みんなの党の議員がプロジェクトチームを作り検討を進め、9月定例会で条例案が提案され、賛成多数で可決されました。

(事務局)

条例案の中身はどのようなものでしょうか。

(堀添)

「児童虐待の防止等に関する法律」を踏まえ、行政をはじめとする責務や対応を規定するものとなっています。罰則規定こそありませんが、児童虐待防止の理念だけを示した条例ではなく、具体的な取り組みなども定められている点が特徴的だと思います。

(事務局)

全会一致ではなく賛成多数となったのはなぜでしょうか？

(堀添)

もちろん、児童虐待を防止するという点については、全議員が賛成するところです。議論が

分かれたのは、児童虐待防止のためにどのように実効性を確保するのか、逆に市民の権利を侵す危険性はないのか、さらには条例制定への市民参加のあり方について、といった点でした。

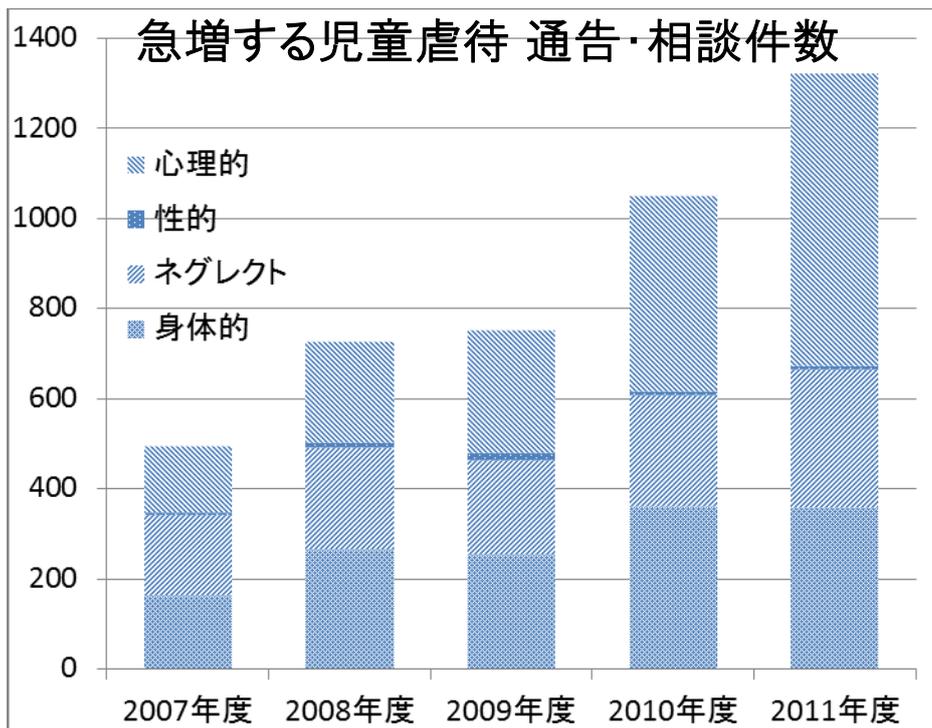
今後、今まで以上に能動的な議会活動が必要となってきます。議会の場を市民の総意を形成し決定する場にしていくためにも、今回の条例制定の過程における課題を整理し、その解決にむけて丁寧に議論を重ねていくことが必要であると思います。

(事務局)

ありがとうございました。



- 1963(昭和38)年2月6日、高津区に生まれ、高津小学校出身。桐朋中学、高校を経て東京工業大学を卒業。
- 東京都三鷹市で9年間、地域情報化やプライバシー保護等に従事。
- セブーンイレブン本部での情報システム構築をはじめ、ITを活用したシステムづくりに従事。
- 2003年4月、川崎市議会議員に初当選。
- 2007年4月、同2期目当選。
- 2011年4月、同3期目挑戦するも惜敗。
- 民主党神奈川18総支部 常任幹事
- 民主党神奈川県政委員
- 川崎地方自治研究センター客員研究員
- 経済産業省 システム監査技術者
- 妻と長女の3人家族 下作延在住



# 川崎市における放射線測定結果(10月9日現在)

浄水場：川崎市内の2か所の浄水場では、毎日放射能測定を行っていますが、昨年4月22日以降、放射性ヨウ素、放射性セシウムとも検出されていません。

大気：公害研究所（川崎区）、麻生大気測定局で、放射線量実態調査を毎月行っており、地上5cm、50cm、100cmとも自然界の放射線レベルの範囲内です。（9月は5日に実施）

市内農産物：果菜類（トマト、きゅうり）、根菜類（さつまいも、大根、玉葱）、果実（梅、梨、柿）の出荷前チェックでは、昨年5月に梅（セシウム：29.5ベクレル）、10月に柿（セシウム：4.5ベクレル）から検出された以外は、検出されていません。  
（食品衛生法上の基準値は一般食品100ベクレル/Kg以下、乳児用食品と牛乳50ベクレル/Kg以下、飲料水10ベクレル/Kg以下）

農用地土壌：多摩区の畑（露地）で5月23日に県が実施した土壌調査では、合計29ベクレル/Kgのセシウムが検出されました。（上限は5000ベクレル/Kg）

下水汚泥等：入江崎総合スラッジセンター（9月24日測定） 放射性セシウム測定  
脱水汚泥：169 Bq/Kg 汚泥焼却灰：2,534 Bq/Kg  
（焼却灰は飛散防止処理の上、施設内等で安全に保管されています。）

ごみ焼却灰：橋処理センター（8月14日測定） 放射性セシウム測定  
主灰：116 Bq/Kg 飛灰：330 Bq/Kg 排ガス：不検出  
（飛灰は飛散防止処理の上、臨海部保管施設等で安全に保管されています。）

**放射線測定器の貸し出しを高津区役所でも行っています。  
（電話予約が必要です。044-861-3113）**

連載コラム

## 川崎と高津の地名（No.4）

参考：  
日本地名研究所編「川崎の町名」

### 「二子」の由来

二子（「ふたご」と濁ります）は、もともと二基の大きな塚があったことから「二子塚」とよばれたのが由来といわれています。二子塚は二子六丁目にある二子塚公園のあたりにあり、七百姓という七件の農家によって開村されたそうです。大正中期にはここから勾玉や耳環などが出土しており、この地には古代の頃から豪族が住んでいたようです。

二子村の一角はしばしば多摩川の洪水にみまわれたために、江戸時代の寛永18年（1641年）頃に、村の中心が光明寺（二子一丁目。私の生家は光明寺の裏手にあります）周辺に移ったことが、光明寺の寺伝に記載されています。二子塚付近は、かつては村の中心であったことから、その後も本村（ほんむら）とよばれたそうです。

二子村は、寛文9年（1669年）に溝の口村が矢倉沢往還（大山街道）の宿駅に指定されてから街道沿いに人家が増え、溝の口宿と交替で宿駅を務める二子宿となり、江戸中期から末期にかけて大いに栄えました。大正14年に二子橋が開通するまで、多摩川を越えるための「二子の渡し」もあり、これは矢倉沢往還（大山街道）を結ぶ重要な渡しであったようです。

二子一丁目の多摩川沿いにある二子神社は、私が子どもの頃の遊び場の一つでした。当時は、岡本かの子の文学碑と息子岡本太郎の「誇り」と題された像がつけられて間もなくの頃で、子ども心に強い印象を受けたのを覚えています。また、大山街道を越えて大陸天（だいろくてん）公園にもよく「遠出」をしました。現在もあるイチョウの大木は木登りに最適で、競争をしたり、太い枝にまたがって遊んだりしていました。木は上から見ると、結構高く感じますよね。

### 政治資金ご寄附のお願い

地元から日本改革を実現するために、ご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

### 「ほりぞえ健後援会」宛

郵便振替：高津郵便局 口座00270-1-24169  
銀行振替：川崎信用金庫 高津支店 普通0796294